

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

昨年2月、デフレ脱却へ日本銀行が導入した金利政策、預金金利はゼロ近辺まで低下して、住宅ローン金利も引き下げられた。国債金利のマイナス領域

や、一部の大企業の超低利の社債発行など経験のない経済状況で推移している。

中小・零細企業の資金繰りを支える信用金庫は、異例な政策への対応の為、お金を借りやすい状況を作り出す事で、企業の資金需要を喚起する取組みが全国から伝わっている。

これらの情報を紹介するテレビ番組「ガイアの夜明け」。カニの季節なのにカニが無い。老舗のせいたくスイーツの都会進出。バターの足りない。など関心の高い内容を視聴した人も多いはずだ。12月に放映された「今こそ、地元

の助け人」に地域の銀行マン・信金マン。「銀行に良いイメージが無い、銀行マンのイメージを覆せ。衰退する『ふるさと』に投資を呼び込み、地元を密着顔を出し続ける。今こそ、地元の助け人に

を向上させる取組み」。「経営力強化法」での内容で、講師の遠藤晃融資企画課長の講義を一言も聴き流さないう聞き入る、企業経営者と各支店の若手職員。今回の勉強会の緊張感は、現在の

管課題を理解して、経済の展望と課題を見据えながら事業性を評価する知識が求められ、コンサルティングの力量が発揮できるかが金融マンに求められている。地域の人材や、知的な資産を、どの様に

宿泊地で消費された状況から、地域外への観光旅行や、より美味しい食事を求めて広範囲で行動する旅行スタイル。大北地域にあり余る観光素材を、大北地域の中で魅力ある観光

商品として作り出す積極的な取り組みを、金融マンと展開してほしいと願っている。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

金融経済が激変する状況下で、これからの地域づくりをどの様に展開するか考えてみませんか

のキーワードでの取り組み内容。番組を見ながら気付いた場面がある。12月下旬に、松川村で開催された、松本信用金庫北部ブロック合同の後継者育成勉強会。会社の企業価値

金融が置かれている厳しい状況なのだろう。どちらかと言えば、金融機関の外回り担当の職員は、これまで預金と貸し出しの知識が優先されていた。これからは、各企業の労働生産性などの企業の経

活用できるかが地域のこれからを左右して行くのだろう。大北地域のこれからも同様の。当たり前だった1泊2食のスタイルが、泊食分離に。宿泊地に旅行者から選択されたら、多くの観光消費が

多くの情報を理解した講義内容、組織にとっての「人づくり」の大切さを痛感させる。

